

八尾歴史物語

四四巻

指定文化財シリーズ〈史跡〉その④〈遺跡〉

今回は、国史跡の由義寺跡と府史跡の恩智遺跡についてご紹介します。

道鏡ゆかりの寺として長らく幻の寺であった由義寺の存在が、平成28年からの区画整理事業に伴う東弓削遺跡（東弓削3）の発掘調査で明らかになりました。

遺跡から奈良時代の東大寺や興福寺で使われていた瓦と同じ文様の瓦などが出土し、さらに調査を行ったところ、一辺約20mの正方形の巨大基壇（土台）が見つかりました。基壇は、七重塔であったとされる大安寺の約21m



▲出土した大規模な塔の基壇

に匹敵する規模で、国家事業として建てたものと考えられることから、『続日本紀』に登場する「由義寺」の塔の基壇であったことが分かりました。

今回の発見で由義寺の場所が明らかになり、また、平城京の副都として同様に『続日本紀』

に登場する「西京」の整備が進められたことを証明する日本史上重要な発見として、平成30年2月13日に国史跡に指定されました。

恩智遺跡は、府下でも有名な弥生時代の集落で、恩智神社のお旅所である「天王の森」を中心とした南北20m、東西50mの範囲が府史跡となっています。古くは戦前から梅原末治氏など著名な考古学者たちによる調査が行われ、昭和18年に「恩智石器時代遺蹟」として指定された際に大阪府が建てた石碑があります。縄文時代から弥生時代の土器や石器、木製品などの遺物が多く出土し、弥生時代中期にかけて集落が広がっていたと考えられます。

10月28日（日）、由義寺跡の国史跡指定記念シンポジウムを開催します（13ページ参照）。

☆問合せ 文化財課

☎ 924・8555

FAX 924・5593